

遊び場再検討

○これまでの経緯

- ・実施設計時：人研ぎ滑り台の丘として設計
- ・設計後市民要望：複合遊具を導入検討してほしい
- ・前回推進委員会：子供や保護者の意見を丁寧に聞いた上で最適のものを選定する

○アンケートの実施

- ・アンケートは、好きな遊具ではなく、子供がどのような遊びが好きかで実施した。
- ・アンケート対象：みのりこども園、おしお幼稚園、コノミヤテラス内ふれあいテラス、にここサロン

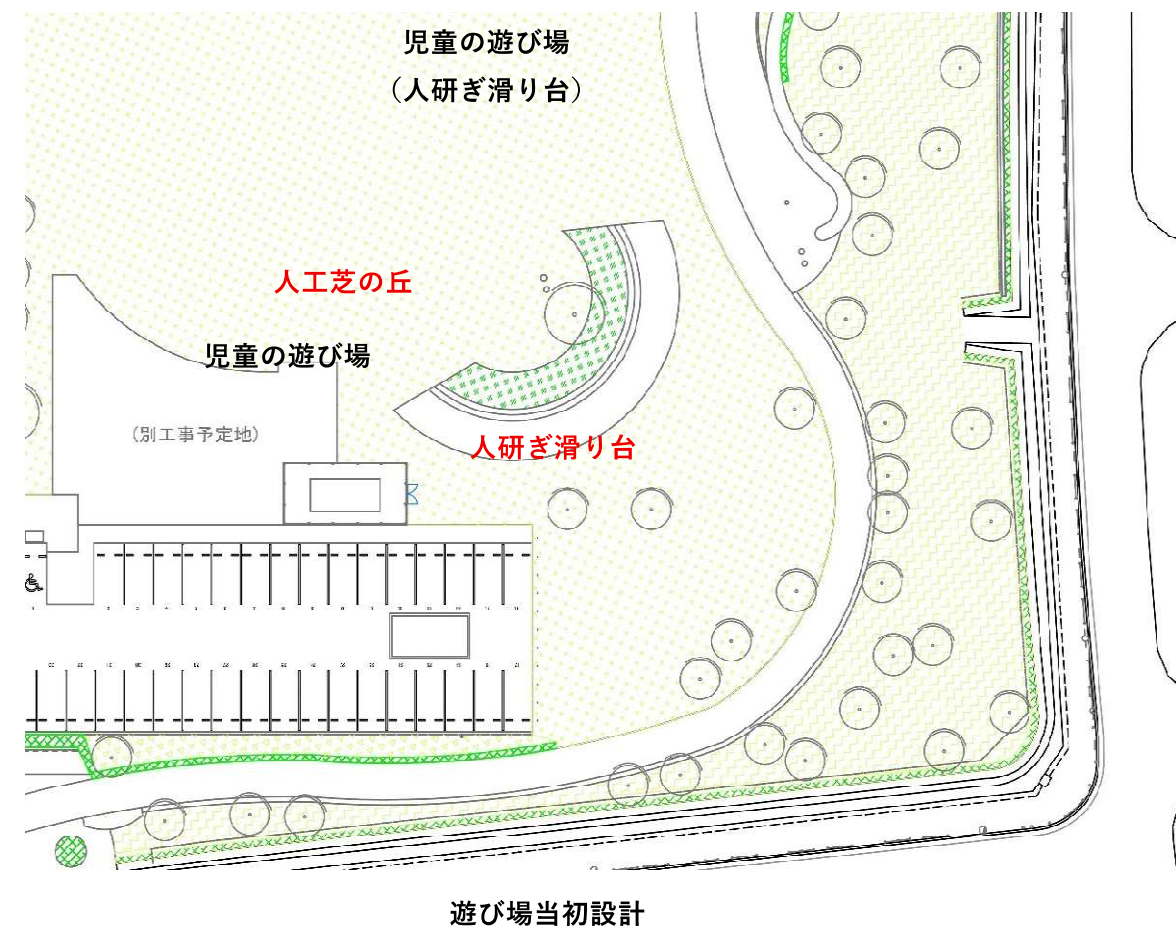


【結果（抜粋）】

- ・最も人気な遊び方は、「飛ぶ・撥ねる」
- ・次いで「すべる」「のぼる」が上位となった。

そのほか自由記述で多数意見だったのは、

- ・さまざまな年齢層のこどもが遊べる場所にしてほしい
- ・見守りやすさにも配慮してほしい
- ・暑さ対策に日陰をつくってほしい



【当初設計の課題】

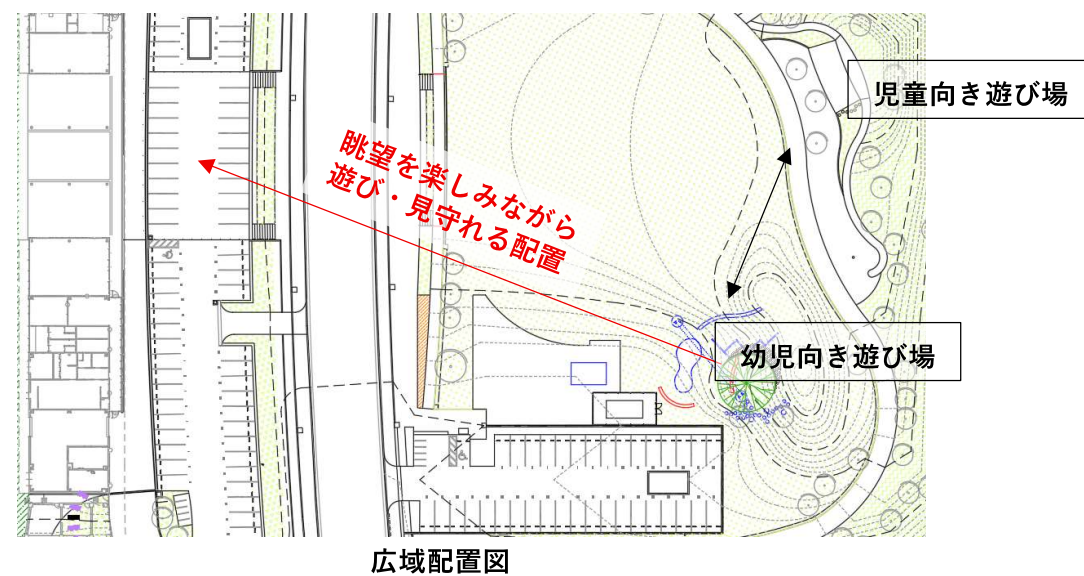
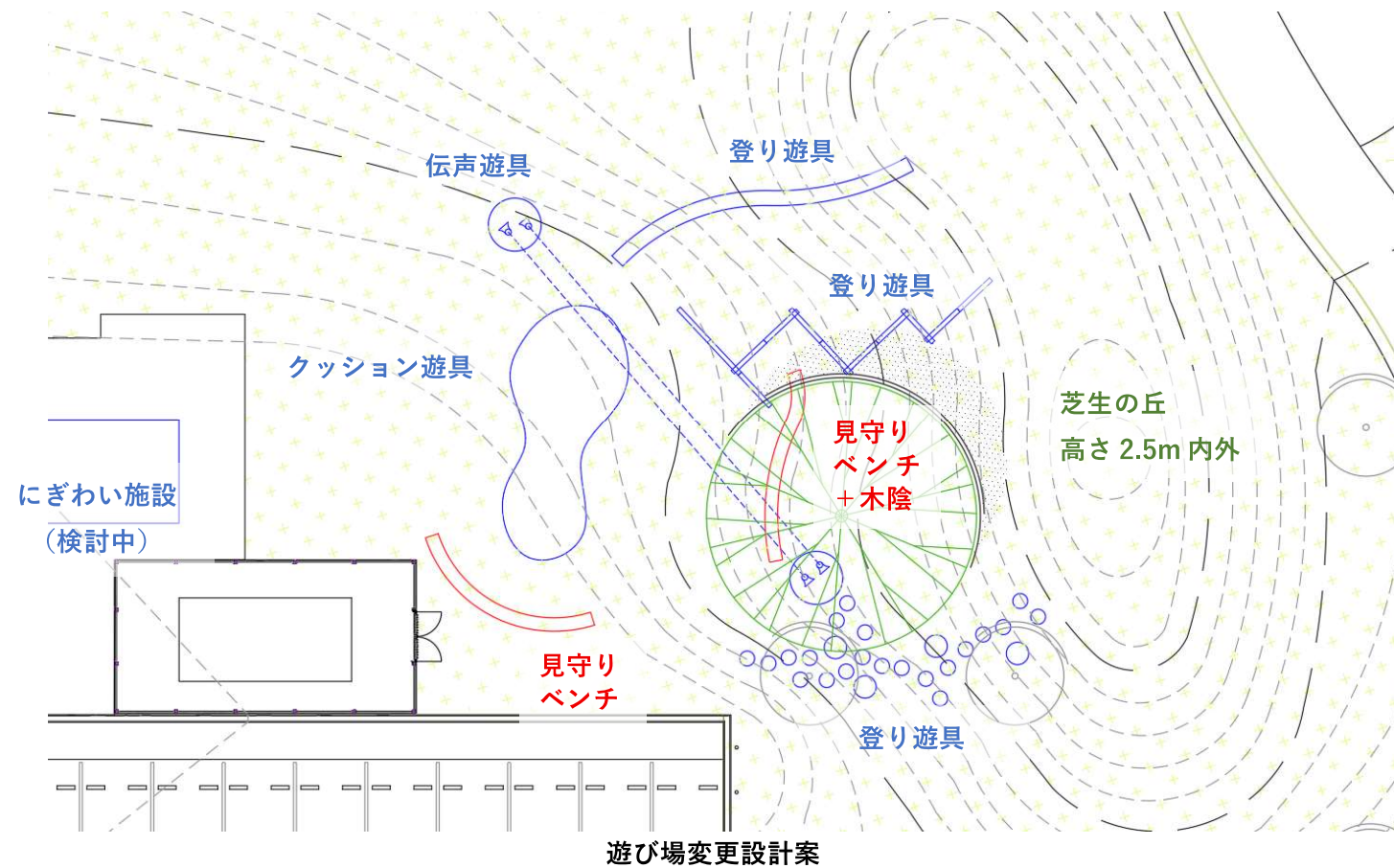
- ①複合遊具のような集客力
- ②北側の人研ぎ滑り台との年齢層のかぶり
- ③見守りしやすい場所の不足
- ④本敷地特有の地形を楽しむ要素の不足

アンケート結果および当初設計の課題を踏まえ

遊び場再検討

○上記を踏まえた設計方針

- ① Aゾーンへの眺望性を考慮した芝生の丘をつくり、多様な登り方を設けることで、公園全体を感じられる立体的な遊び回りができる計画とする
- ② 遊具には幼児に人気の「飛ぶ・跳ねる」遊びができる雲のようなふわふわ遊具を設け、遊びを通じた交流拠点とする。（靴を脱いで遊ぶようなサインを描く）
- ③ 公園全体を感じながら木陰で見守れる大きなクスノキと見守りのベンチを配置する



クッション遊具イメージ

※ふわふわドームのように空気ではなく、PE樹脂構造体が充填されているため、管理が比較的容易
 ※サイズおよび平面形状は、予算を考慮の上検討。



丘の登り遊具イメージ



丘の上下をつなぐ伝声管イメージ



丘の見守りベンチイメージ